

3/6(A)

早朝、バン2台の上に荷物を乗せまくし村へと出発する。
 CONAKRYも程なく行くと、もうすでに三角屋根の
 トラディショナルハウスがほわんほわんと見えてきた。
 前回はコナクリにしか居なかったのが全く解らなかつたが、
 ちやうど車を走るとこんなにはアフリカらしいアフリカがたまたま
 いたとは...。しかも、何処途中途中に、ビデカい山と久
 未死見、ほ...遠里村の様々物とみがあり、一人で想像
 するには最速の時間だった。途中のミルシエで昼食をとり、
 村に行く前に日本にごんわをした。村へ行くにごんわもよい。
 久しぶりに肉いた。家族の声にホッとした。やはり子供たちの声
 肉くし、元気になる。血のつまみを感じる。さざに走る。
 もう何時向車に乗っているのだ。昔程からリップなじで
 族には小娘らしいはあなのには、くたくたただらぶらと。
 途中の村 Farannahへ到着した。ここは、ギンサーミタミタミ
 フォードに、うし氏のご理で、Kawaというリズムがさま
 な所だ。着くと、さずかにグツグツしている。ほじまりました
 ドゥムバ。歓迎してくれている様だ。撥ねボーンとしていると、
 何と知らないんだと怒られた。自分たちの為には歓迎で
 演奏してくれた事に対してありがとうの表現してグツグツして、
 ドラマーたちに投げ銭するところか。常識らしいの
 除々に理解はかろう。夫見かろ学ぶ。この族はそんな感じだ。
 しかも、Farannahのドラマーもグンサーミレベルが高かった。
 すく軽くたたいた新麓なみじな音を出す。あはじしかった。
 一月くらいではなまなま上手くなるのはあはじしかった。この音。
 この雰囲気はやはりアフリカだなと経験できない。
 何となくとも吸収しよう。自分が乗らなくなれば吸収しやす
 なる。あくまでもやらなくいふ。

3/7(水)

Farahahはすでに自分に合っていた。ドラマ-連もラスタが釣く、少しワルい。ほ、恐いのがめっちゃ良かった。イケイケとゆりせが混在して、女子の恐いだった。Farahahの自然も大きかった。や、と色んな事に慣れた。同行しているアフリカ人たちとも一緒に行った日本人たちとも打ち解けた。午後、川へみんな一緒に行った。そこで更に深まった。裸の付き合い。日本もアフリカも同じだった。午後、フドゥバの息子連を中心としたバレエ団の練習を見た。アクロバットがすごかった。みんな鎖を上げられていて、すばらしいショーだった。アフリカの家族はみんな仲が良い。言いたい事も気がすむまで言う。おとはさっはりしている。日本人は、ゆりこいなあーと思った。あ、ムダに、みんな集まると、コーヒ-飲んだり、喫たり、しゃべったりと、何れも寄り合っている。でも一番これが大切だと思った。日本は、一つの家に一家族。おとなりせいと隔年色されて、子供はお母さん一人ぼっち。アフリカはみんな青い。お金の豊かさ人の豊かさ。僕はお金の豊かさを重視する。

3/8(木)

早朝起きると、一路ワシントン村へ。ワシントンは Sayon さんの地元で、サイオンの息子 ファティンバのふるさとでもある。途中でキンドグらという街のマルシェへ行く。やはり、ワシントンは空気が悪く、臭いが痛い。ゴミだらけで汚い。アフリカの近代化は、石油製品に犯されている。ビニールのゴミだらけ。全く欧米社会からの輸入によるものだ。戦後の日本を思い起こさせる様な混乱。知識の多い人は平気で子供の前でビニールを燃やして黒い煙も上げている。ガソリンも臭いが悪いらしく、すぐのどが痛い。

ほんりと老む人の夕さで、体調がよくなりました。病は去から、気は石倉かに持ちし。用じしたい。や、このこじくカシディアに着いた。着いたとたんは、すじい歓声し。すじい人に迎えられ、着つかれが一気にふっくら。とにかとすじかた。みんな興味深々にジロジロ見いた。この村は最高なも。直感でわかった。とにかく今白まらしばらくは電気、ごんか、ガス、水道の無い、生活になら。未体験ゾーンへ突入！！ あーんじからたー。！！

3/9(木)

朝のおみやを食べし。ティンゴ。東曜は、僕らの意見をフランス語で通訳し、アフリカ人たちの意見を僕らに通訳しては。その合同をぬる。シディアの大人たちの無理な要求に直面し悩ました。いろいろ人の面影を見た。と、太鼓以外でもよくとら小せをうた。でも、違った文化の中。これだけ流り歩け子のはるすじいなと尊敬した。やはり言葉のカベはデカい。でも、マリンヤの人たちも言っていたが、マリンヤと日本には合うらしい。言葉の調子なのか。人柄なのか。とにかく気が合うらしい。たまた、大したホキョブライもよい。僕にもある程度コミュニケーションでき子。同行した日本人の友達たちも、何かにコミュニケーションできていた。みんな楽しんで仕方がないと言ってくれていた。Happy! 夜、僕らのおみやのコンサートが周遊された。まが出し物の一番手として僕が日本の民謡、奄美大島の島唄を唄った。この分、世界初の出来事、歴史的な出来事なのには、さりがなく終わり。みんなてアフリカのリズムを演奏するやいなや。

皆の踊り出していくと感動した。琴の32に、みんな日本の音楽。楽協の音色はすばらしい。と言ってくれ。自分の今までやしてきた事が身を穿つんだ瞬間だった。日本人として、日本のオリジナル文化をやるとき良かったと思えた。アフリカ人に憧れ、アフリカ人のまね、こたげをしていたら、これだけの Respect は得られなかったのだ。またまた日本人に生まれた事に感謝した。

Djembéに囲まれる以上、日本の文化も大切にしたい。それにしても、アフリカの村のまじりは最高だった。いっしょにたたく楽しさをもらったし、みんな自分たちの言葉でバップの踊り、してくれたい。自分たちも村の人たちも満足できよかったです。改めて、感謝。

3/10

この村の石臼ぼんり。ま、赤いパーのオイルをたっぷり使ったアフリカのゴハンに少しやらかつ。昨日もらった胃腸薬で完全復活!! 自分のクツさに感じた。村のグリの長に、ギターを習い始めた。今まで身に付けたシゲエのテクニックとは全くちがって、練習曲はゆび使いで、コードというより、単音をオクターブで弾いていた。かと思ったら、夜、シゲエの中心広場でギターの先生たちのラッパがあった。先生と仲内の一人がギターを弾き(ボロボロの工もギター)でラッパのグリの音が響き響き。(これがまた、あちから聞こえてきた。ダンス)が始まった。とにかく自由にまどろんでいた。日本のダンスの中には、カテゴリーがあつて、不自由に思える。あんなに本能のまどろり下りも恐れを叫ぶ。人類共通のステップ。